

江差町幼保小中の連携を深める「かけはしシンポジウム」

令和8年1月15日、オンラインにて「令和7年度かけはしシンポジウム」が開催され幼保小中の関係者78名が参加しました。

江差町教育委員会では、かけはしプロジェクト基本構想を掲げ、幼保小中の協働による架け橋期の教育の充実を進めており、その目的に資する親子関係支援について学ぶシンポジウムを行い、江差の子どもの学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小・中学校教育の接続について考える機会として開催しました。

北海道医療大学心理科学部教授冨家直明氏から趣旨説明を受け、その後、講演として北海道医療大学心理科学部助教の上河邊力氏から「CARE でつなぐ子どもたちの未来～幼・保・小・中の安心感の醸成～」と題し、エビデンスに基づいた大人と子どもの関係性向上スキルとして CARE プログラムについて話されました。

CARE は誰もが習得可能な、練習で身につくスキルであり、避けるべき3つのK（命令コマンド・質問クエスチョン・批判クリティシズム）、使うべき3つのP（ほめる Praise・繰り返す Paraphrase・実況中継 Description）を意識することが大切と話されました。

最後に総括として冨家教授は、江差の取組が参考になれば良いこと、多くの先生方に出席頂いた感謝などを話され、講演が終了しました。

※令和7年度はヒグマの出没が相次ぎ、対面での実施が叶いませんでした。

※この事業は、北海道医療大学との地域連携事業に関する協定に基づき、委託事業・研究の一環として実施しています。

委託事業・研究の内容は以下のとおりです。

目的	・教育相談に関する知識と技術の開発、幼保小中をつなぐ切れ目のない支援のあり方、ならびに、特色ある江差の文化風土の学びを活かし、グローカルかつ持続可能な視点を持った学生実習教育の受け入れ方法について知見を得る。
内容	・教育相談と心の健康教育に関する地域支援のあり方に関する共同研究の実施 ・幼保小中をつなぐ切れ目のない支援のあり方に関する共同研究の実施 ・特色ある江差の社会教育を活かした学生実習教育の受け入れに関する共同研究の実施 ・グローカルかつ持続可能な視点を活かした地域連携の方法に関する共同研究の実施
期間	・令和7年5月1日から令和8年3月31日まで